

第4版の序

本書『特別支援学校における重度・重複障害児の教育（第4版）』は、主に特別支援学校や特別支援学級で肢体不自由児や重複障害児の指導を担当している現職教員や、これから特別支援教育の教員を目指して大学で特別支援学校の教員免許の取得を希望する学生をはじめ、広く教育関係者、さらに障害の重い子どもをもつ保護者や家族の方などを対象として作成された、わかりやすい「重度・重複障害児の教育」の基本テキストである。

本書の初版を出版してから早いもので、12年の年月が経過しつつあり、本書が今日まで広く読み継がれてきていることに感無量な心地である。この度、本書の第4版を出版できることは、著者として望外の喜びであり誠に嬉しいことである。第3版を2016年に出版してから約2年版が経過した。この間に、2017年4月に、特別支援学校の幼稚部と小・中学部の学習指導要領が改訂され、さらに高等部の学習指導要領が2019年2月に告示された。

本書は、前半の第Ⅰ編では、重度・重複障害児の基礎にあたる肢体不自由児の特性や指導の理解から、重度・重複障害児、さらに超重症児の特性と指導の理解までを概説すると共に、後半の第Ⅱ編では、筆者が養護学校（現特別支援学校）に勤務していた時に担任をした障害の重い児童生徒の指導事例を具体的にわかりやすくまとめている。重度・重複障害児の教育は、教師が実践のただ中から対象児の実態をつかみ、自ら主体的に指導目標や指導方法を創意工夫して力量を高めていくものであると信じて、参考として指導事例を収録している。

今回の学習指導要領の改訂では、障害の重い児童生徒に対して、従来からの自立活動の指導を重視するとともに、対象とする児童生徒に必要なとされる教育内容を検討し、必要があれば、各教科等の指導についても見直して指導を行うことが示された。また今回、自立活動の指導は、特別支援学校だけではなく、小・中学校の特別支援学級や通級指導教室でも一層重視されたことから、今後

さらに発達障害児の在籍している通常の学校を含めて、すべての学校、すべての学級等で必要とされる重要な指導領域になってきている。

今回の改訂では、自立活動の指導内容に関して、下位項目が1つ追加され、各下位項目の文言が見直され、6区分・27下位項目に整理された。特に、自己選択・自己決定する機会を設け、思考・判断・表現する力を高められる指導内容の設定、自立活動の意味を将来の自立や社会参加に必要な資質・能力との関係から理解すること、さらに対象児になぜこの指導目標を設定したのか、どのようにしてこの指導内容を選定したのかなど、個別の指導計画を作成する際の根拠を明確にする取組みが示された。これは個別の指導計画を保護者や同僚教師等に根拠を示して説明できるようになる上で、不可欠な取組みといえる。

本書が、これから重度・重複障害児の教育の基礎を学ぼうとする読者にとって、理解しやすい入門書として活用されることを期待してやまない。本書を手引書として、この教育に使命をいただき、情熱をもって従事する人が出て来てくれることを念願している。

2019年4月吉日

常葉大学の研究室にて 姉崎 弘

まえがき

本書は、特別支援学校における重度・重複障害児の教育に関する初学者向けの入門書である。

特別支援学校（肢体不自由）は、2006（平成18）年度全国198校の約2割の学校が知的障害教育部門や病弱教育部門を併置し、地域に根ざした「総合制特別支援学校」としてすでに動き出している。本書では、特別支援学校における重度・重複障害児の教育を理論と実践の両面からまとめ、初学者にも学びやすいように基礎的・基本的事項をわかりやすく解説し、図表や写真を多用した。

私がかつて、特別支援学校（知的障害および肢体不自由）に12年余り勤務した経験がある。特に、肢体不自由児や重度・重複障害児の教育に、中でも本校の特別支援学校に通学が困難な訪問教育を受けている子どもの教育に自らの使命と生きがいを感じ、教材づくりや指導方法の工夫、さらに教員の研修方法の開発等に情熱を注いできた。また、障害のある子どもたちばかりか、保護者や同僚の優れた教師たちからも多くの事柄を学ぶことができ、私自身のかけがえのない財産になっている。特に、障害の重い子どもたちの笑顔や精一杯取り組んでいる姿に私自身何度も励まされたことを昨日のこのように覚えている。

本書では、「第Ⅰ編 重度・重複障害児の理解」において、特別支援教育の今日的な視点に立って「肢体不自由児の特性と指導」、「重度・重複障害児の特性と指導」、「重複障害児の教育課程と自立活動の指導」および「医療的ケアと訪問教育の指導」の理論をそれぞれ概説した。中でも「肢体不自由児の特性と指導」を取り上げたのは、重度・重複障害児の多くが肢体不自由をその基礎障害に併せ持つためである。

また、「第Ⅱ編 重度・重複障害児の指導」において、「脳性まひ児」、「難治てんかん児」、「進行性筋ジストロフィー症児」、「在宅訪問教育児」および「医療的ケア児」の5名の重度・重複障害児の指導実践をそれぞれ収録した。これらの子どもたちは、肢体不自由児、重度・重複障害児の典型的な代表であることから取り上げることにした。いずれも私がかつて特別支援学校現場で直接担

任をし、指導した教え子たちである。本書では、私が特別支援学校で指導した事例の中から、特に今日の重度・重複障害児の教育に示唆を与えるであろう指導事例を取り上げて、実際の・具体的な取組み方について詳述した。

障害のある子どもの教育では、教師は基礎理論を学ぶとともに、直接的な実践体験の中からより多くの事柄を学び取る姿勢が特に重要であると考えている。そして実践体験を自ら省察しながら理論を深く学び直すことが大切である。このようにして教師は理論と実践との間を何度も往復することによって、地に足を付けた確かな指導力量を形成していくことができるといえる。

2007(平成19)年4月から、特別支援教育が制度化された。これまでの盲・聾・養護学校は特別支援学校に改称し、地域の特別支援教育のセンターとして、小・中学校等を支援する役割が一層明確に示されたといえる。今日、小・中学校現場では、特に、通常学級に在籍するLDやADHD、高機能自閉症等の軽度発達障害児への教育的支援の充実が急務とされている。1979(昭和54)年の養護学校教育の義務化以後、重度・重複障害児に対する教育の在り方が研究され、その指導法については今日に至るまで約30年の蓄積がある。この重度・重複障害児の教育において長年培われてきた指導のノウハウは、これからの軽度発達障害児の教育にも十分示唆するものがあると思われる。

なお、第Ⅱ編実践編に収録した事例の紹介や写真は、すべて保護者の承諾を得た上で掲載している。中には、20代前半ですでに天国に旅立っていった仲間もいる。私自身、特別支援学校現場において、担任としてこれらの障害の重い子どもたちとの良き出会いと交わりから、人が生きる上で大切な多くのものを学ばせていただいた。ここに、これらの子どもたちに心から感謝の意を捧げるとともにそのご冥福を祈り、謹んで本書を捧げるものである。

本書が、重度・重複障害児の教育や特別なニーズのある子どもの教育を志す学生や教員等のすべての人々に、何らかの指針や道しるべとなるならば、著者としてこれ以上の喜びはない。

2007年4月

津市の自宅にて 姉崎 弘

特別支援学校における
重度・重複障害児の教育 第4版

目 次

第4版の序	i
-------------	---

まえがき	iii
------------	-----

第I編 重度・重複障害児の理解	1
-----------------------	---

第1章 肢体不自由児の特性と指導	3
------------------------	---

1 肢体不自由とは	3
2 脳性まひの定義と分類	4
3 脳性まひ児の特性	5
(1) 知的障害	5
(2) 言語障害	5
(3) 知覚障害	6
(4) 行動特性	6
4 特別支援学校（肢体不自由）の教育課程	7
5 自立活動の指導と「個別の指導計画」の作成	8
6 各関節の運動および肢位の表示法	8
7 運動発達の道すじ	10
(1) 腹臥位の指導	11
(2) 寝返りの指導	12
(3) 腹ばいの指導	12
(4) 座位への起き上がり	13
(5) 四つばいの指導	14
(6) 上肢の運動発達	15
8 座位保持椅子（装置）および椅子座位	15
9 歩行器と下肢装具	16
10 起立保持具（姿勢保持装置）	18
11 スイッチおよびコミュニケーター	18
12 校内の施設等	20

コラム 肢体不自由児教育の歴史

高木憲次（1888-1963）—人物と思想— 21

第2章 重度・重複障害児の特性と指導	22
1 重度・重複障害児とは	22
2 重症心身障害児の概念	23
3 超重症児の概念	24
4 重度・重複障害の原因	24
5 重度・重複障害児の特性	25
(1) 生理調節機能について	25
(2) 身体発育について	25
(3) 運動機能について	26
(4) 摂食・嚥下機能について	26
(5) 排泄機能について	26
(6) コミュニケーション機能について	26
(7) 行動障害について	26
(8) その他の合併しやすい疾患について	27
6 重度・重複障害児の指導	27
(1) 重度・重複障害児の指導内容	27
(2) 健康の保持・増進および身体機能の保持・向上を図る指導	28
(3) 呼吸指導の実際	29
(4) 食事（摂食）指導の実際	31
(5) 排泄指導の実際	33
7 自立活動の主な専門的指導法	34
(1) ボバース法	34
(2) 動作訓練法	34
(3) ムーブメント教育・療法	35
(4) 感覚統合療法	35
(5) 音楽療法	35
(6) 静的弛緩誘導法	36

- (7) AT・ICTの活用 36
- (8) スヌーズレン教育 36
- (9) 重力軽減環境訓練システム（楽スタ） 37

コラム 重度・重複障害児教育の歴史①

小林提樹（1908-1993）—人物と思想— 39

第3章 重複障害児の教育課程と自立活動の指導 40

- 1 重複障害児等に関する教育課程の取扱い 40
 - (1) 合科授業 40
 - (2) 重複障害児に関する教育課程の取扱い 40
 - (3) 学習が困難な児童生徒に関する教育課程の取扱い 41
 - (4) 訪問教育に関する教育課程の取扱い 42
- 2 重複障害児を指導する際の留意事項 42
- 3 自立活動の類型 44
- 4 自立活動の要点 45
- 5 ICFの生活機能分類モデルの活用 50
- 6 教員の専門性の向上と指導の一層の充実 52
- 7 「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」 54
 - (1) 「合理的配慮」を含めた「個別の教育支援計画」の作成 54
 - (2) 「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」との関係 56
- 8 キャリア教育の充実 57
- 9 特別支援教育のセンター的機能の充実 58
- 10 卒業生の進路状況 59

第4章 医療的ケアと訪問教育の指導 60

- 1 わが国における医療的ケアへの取組み 60
- 2 教員が実施できる行為（特定行為）等 61
 - (1) 特定行為を実施する上での留意点 61
 - (2) 医療的ケアの対象児童生徒 62

(3) 医療的ケアの実施者	62
3 文部科学省の別添「特別支援学校等における医療的ケアへの今後の対応 について」(2011年)	65
4 医療的ケアの意義	66
(1) 教育的意義	69
(2) 福祉的意義	69
5 医療的ケアのための看護師配置事業	69
6 全国における医療的ケアの現状と課題	70
(1) 特別支援学校の場合	70
(2) 小・中学校の場合	72
7 訪問教育の概要(試案)と問題点	73
8 訪問教育の実態と指導法	75
9 訪問教育の現状と課題	76
(1) 訪問教育担当者の特別支援教育(特殊教育)担当経験年数	76
(2) 訪問教育担当者の訪問教育担当経験年数	76
(3) 担当者1名あたりの担当(担任)児童生徒数	77
(4) 担当している児童生徒の訪問先	77
(5) 担当している児童生徒の1週間あたりの授業回数	77
(6) 担当している児童生徒の1回あたりの授業時間(分)	77
(7) 担当している児童生徒の実態と授業回数の整合性	77
(8) 担当児童生徒の担当経験年数	78
(9) 担当児童生徒の教育課程	78
(10) 担当児童生徒の指導で重視している教科・領域等	78
(11) 自立活動で重視している内容	78
(12) 担当者の抱える実際の指導に関する悩み・課題	79
(13) 訪問教育の条件整備・制度に関する悩み・課題	79
(14) 指導体制に関する悩み・問題	80
(15) その他の悩み・課題など	80

第Ⅱ編 重度・重複障害児の指導 83

第5章 脳性まひ児の指導例 85

- 1 貴生君のプロフィール 85
- 2 長期指導目標の設定 92
- 3 自立活動の個別学習（身体機能の向上） 93
- 4 食事（摂食）指導と排泄指導 98
- 5 自立活動の集団学習「生活」 102
- 6 題材『夢の国へ行こう』から 105
- 7 指導を振り返って 113

第6章 難治てんかん児の指導例 115

- 1 允君のプロフィール 115
- 2 長期指導目標の設定 118
- 3 その日やその時の体調に応じた指導や配慮 121
- 4 主要な教科・領域でのあらわれ 121
- 5 睡眠一覚醒リズムの不安定から学ぶ指導上の配慮 126
- 6 てんかん重積状態の経験から学ぶ指導上の配慮 130
 - (1) 家庭・学校での様子および気温・湿度の変化 131
 - (2) てんかん重積状態を起こした当日の様子 132
 - (3) 考察 134
- 7 指導を振り返って—教員研修の重要性— 136

コラム 重度・重複障害児教育の歴史②

辻村泰男（1913-1979）—人物と思想— 138

第7章 進行性筋ジストロフィー症児の指導例 139

- 1 進行性の疾患をもつ児童への特別な教育的配慮 139
- 2 浩介君のプロフィール 140
- 3 教育活動全体を通して指導する「自立活動」の指導 143

4	抽出による自立活動の指導	148
	(1) 「見通しや興味を持たせることで意欲的な活動を促した指導」	148
	(2) 「ゲーム遊びを通じて意欲的な活動を促した指導」	154
	(3) 「目標の意識づけや学習の達成度を自己評価しやすくしたことで意欲的な活動を促した指導」	157
5	「自立活動」の指導のまとめ	158
6	1年間の学習成果	158
7	指導を振り返って	161
第8章 在宅訪問教育児の指導例		163
1	訪問教育への情熱	163
2	陽君のプロフィール	164
3	在宅訪問教育の特色	166
4	重度・重複障害児の教育とは	169
5	自発的な移動動作を引き出す指導	172
6	訪問教師と母親とのティーム・ティーチングによる指導	178
7	指導を振り返って	180
第9章 医療的ケア児の指導例		183
1	病室での超重症児との出会い	183
2	健太郎君のプロフィール	185
3	病院訪問教育の授業が始まって	186
4	重症児施設での新たな体験	193
5	朝の会や学校行事等に参加して	197
	(1) 朝の会	197
	(2) 体育大会	199
	(3) クリスマス会（集合学習）	201
6	学習態度と言語表現能力の向上	205
7	指導を振り返って	207

あとがき	210
引用・参考文献および参考サイト	213
索引	218